2015年10月1日発行（隔月発行）

図書館報 ぷらっっ★篠崎

044号

P2～P4 特集
「これから5冊しか読めないとしたら何を選ぶ？
～篠崎図書館スタッフによるセレクション～」

P1 江戸川まいにんぐ
「東京湾」

P4 そのメロディに魅せられて♪
「スタンド・バイ・ミー」

P4 スタッフのセレクション
「明治前期・昭和前期東京都市地図1東京東部」

２０１５年読書週間標語 いつだって、読書日和

10月27日（火）から11月9日（月）は、「**読書週間**」です。篠崎図書館内では今年も、読書週間にちなんだ企画展示を実施します。その企画内容とは……。

特別展示「トップアスリートと読書」

１０月27日（火）～11月23日（月）

この度、現役五輪選手と元選手の皆様に、読んで勇気づけられた本、喜びや楽しみを与えてくれた本など、心に残る作品をご紹介いただきました。選手の皆様のプロフィールと共に**新聞・雑誌コーナー**にて展示致します。オリンピック・パラリンピック出場という特別な経験をされた方々がご紹介下さる作品は、きっと皆様の心をとらえ、読書への扉を開くきっかけとなるでしょう。また、同期間に**「篠崎秋の収穫祭」**と題し、館内一斉展示も行う予定です。

江戸川まいにんぐ　発掘　第４４回
東　京　湾

江戸川区内のイベントやスポットを、スタッフが調査して身近な情報をお届けする、地域密着型のコーナーです。

今年も暑い夏が終わりましたが、皆さんは海水浴に行きましたか？　江戸川区の海水浴場と言えば、葛西海浜公園西なぎさで顔をつけて遊泳できるようになったというニュースが今年話題になりました（今年は8月で終了）。約50年前より、遊泳が禁止されていた東京湾の海水浴場が、近年の工場排水の基準の強化や下水道の整備によってようやく水質が改善され、葛西では2013年より試験的に海水浴場の許可がおりるようになったのです。

水質の改善は海水浴だけではなく、かつて盛んだった東京湾の漁業にも復活の兆しをもたらしました。現在江戸川区のNPO団体が中心となって、牡蠣（東京湾は牡蠣の宝庫でした）、海苔（葛西海苔）などの養殖を再び試みる実験が行われているようです。まだまだ水の透明度には改善の余地がありますが、牡蠣などの二枚貝には水の浄化作用があるので、養殖が水質の向上にも貢献します。最近話題となった「ホンビノス貝」など、「江戸前」が新しい形で再び盛んになる日も近いのでは。

参考資料

『海水浴場復活シンポジウム』	ふるさと東京を考える実行委員会編	ふるさと東京を考える実行委員会	K1-51	篠崎ほか所蔵
『東京湾の歴史』	高橋　在久編	築地書館	K3-21	篠崎ほか所蔵
『江戸川区史』第1巻・第3巻	江戸川区区史編纂室編	江戸川区	K1-21-1・3	篠崎ほか所蔵

イベント情報

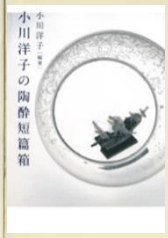
講演会
みすず書房の歩み
『夜と霧』から『21世紀の資本』まで

講師：持谷　寿夫

10月31日（土）

14時　開演　（13時30分　開場）
場所：篠崎文化プラザ　講義室
定員：50名（事前申し込み制）
10月3日（土）14:00から図書館カウンターまたはお電話にて受付します。

人文系出版社の老舗みすず書房は今年創立以来70年を数えます。数々の良書を生み出してきた同社の歩みを社長の持谷寿夫氏に語って頂きます。
「みすずの本って何であんなに真っ白なの？」という素朴な疑問への答えや、『夜と霧』『21世紀の資本』など代表的な翻訳書にまつわる裏話などもご披露頂きます。



『小川洋子の陶酔短篇箱』
小川　洋子編著
河出書房新社
Fオ
篠崎ほか所蔵

泉鏡花「外科室」が入っているので選んだのですが、他にも井伏鱒二から川上弘美まで幅広い作家の珠玉の短篇16作が収録されています。1作ずつに対する小川洋子の解説エッセイもまたいい感じ。5冊しか読めないとなると、1頁ずつ余韻に浸れるものがいいと思っていたので、まさにこの本はぴったりでした。

『絵本化鳥』 泉　鏡花ぶん　中川　学ゑ　国書刊行会　726ナ　篠崎ほか所蔵
『ゴドーを待ちながら』 サミュエル・ベケット著　白水社　952ヘ　篠崎ほか所蔵
『ドーナツを穴だけ残して食べる方法』 大阪大学ショセキカプロジェクト編　大阪大学出版会　002ト　篠崎ほか所蔵
『日本語のミッシング・リンク』 今野　真二著　新潮社　810コ　篠崎ほか所蔵

『虚空遍歴』上・下
山本　周五郎著
新潮文庫
BFヤ1・2
篠崎ほか所蔵

『私とは何か』 池田　晶子著　講談社　104イ　篠崎ほか所蔵
『冬の旅』 立原　正秋著　新潮文庫　BFタ　篠崎所蔵
『火の鳥』4　鳳凰編 手塚　治虫著　朝日新聞出版　J726テ4　篠崎ほか所蔵
『山頭火句集』 種田　山頭火著　ちくま文庫　B911タ　篠崎ほか所蔵

テーマからなんとなく“最後に読む本”を連想してしまい、結果、人間が生きるとはどういうことかといった様な本が多くなってしまった。その中でも極めつけがこの本。人間にとって大切なのは死後の名声ではなく、自分の一生を「生き抜いた」かどうかなのではないか――。一つの仕事に命を懸けて打ち込む人間の姿を通して、そう読者に問いかけるこの小説の厳しさは、何度読んでも決して色あせない。

そのメロディに魅せられて♪

『スタンド・バイ・ミー』(「60’Sプレミアム・ベスト」収録)　ワーナーミュージック・ジャパン　G2フ09250　篠崎ほか所蔵
『＜DVD＞スタンド・バイ・ミー』ロブ　ライナー監督　ソニーピクチャーズエンタテインメント　V1ス00799　篠崎ほか所蔵

今年の4月に亡くなったベン・E・キングが、元々は黒人霊歌だったというこの曲をリリースし大ヒット。覚えやすいメロディとシンプルな歌詞でメッセージがストレートに伝わってきます。その後、ジョン・レノンがカバーしたり、同名映画がヒットしたことでリバイバルヒットします。

この映画はスティーブン・キングが原作ですが、少年時代のノスタルジックな思い出、友情などが心に沁みてくる作品です。もし最後に観る映画は……と聞かれたら、私はこれを選ぶことでしょう。

スタッフのセレクション

篠崎図書館で働くスタッフが選んだおすすめ本を紹介します。

『明治前期・昭和前期東京都市地図1　東京東部』　清水　靖夫編　柏書房　RK1-29　篠崎ほか所蔵

今回は特集ページがスタッフのオススメ本という事で、このコーナーでは今回敢えて貸出できない本を選んでみました。

「昔の地図はありますか？」という質問は、図書館での地域に関する問い合わせベスト5に入ります。特に開発が進んだ東京においては、ひと昔前にあった川が埋め立てられ、ただの荒れ地が今や高層マンションになっていた、なんてこともザラにあり昔の面影を探すことがどんどん難しくなっているように思われます。

土地というのは決してなくなってしまうものではなく、姿かたちを変えてずっとそこにあり続けているだけ。だからこそ残された古い地図というものは人間の残した当時の記憶の一つであり、魅力となっているのでしょう。

この地図集は1880年（明治13年）から1960年ころ（昭和35年ころ）の東京の東部地域を収録していますが、ここ江戸川区の昔の地図にも、年代ごとに見ていくとびっくりする事が多くあります。特に目をひくのはやはり荒川放水路・江戸川放水路・中川放水路の開削という大事業でしょう。普通の田んぼだった場所が、次のページ（30年後ですが）では突如人口河川が出来上がっているのですから。さらには宅地化により田んぼが少なくなっていく様子や、東京湾沿いの埋め立て地がどんどん広がっていく模様なども一目瞭然。先人たちの努力を偲ぶことができます。

篠崎駅が開業したのもわずか30年ほど前。昭和前期には田畑が広がっていた場所でした。今からみれば隔世の感がありますが、現在の風景も50年後、100年後には昔の証として地図に残されていくことでしょう。100年後の篠崎はどうなっているのでしょうね。

編集後記

夏の間、運動をさぼって、おなかが出てきたので、眠っている筋トレマシーンを出して、ダイエットの秋にします。（風雲ふわふわ丸）／秋といえば、スポーツの秋！　普段全くやらないので、今年は久々にバドミントンでもしようかと。（かき氷職人）／都会から離れて紅葉の一番きれいな所へ旅立ちたい……でも混んでるんだろうなぁ。（しろやぎ）／秋といえば、脂ののった魚に果物・きのこ……食べ物しか思い浮かびません。（まゆげ）

編集・発行：江戸川区立篠崎図書館
住所：〒133-0061
江戸川区篠崎町7-20-19
篠崎文化プラザ内
TEL：03-3670-9102
[しのざき文化プラザHP]内篠崎図書館ページ
http://www.shinozaki-bunkaplaza.com/library/